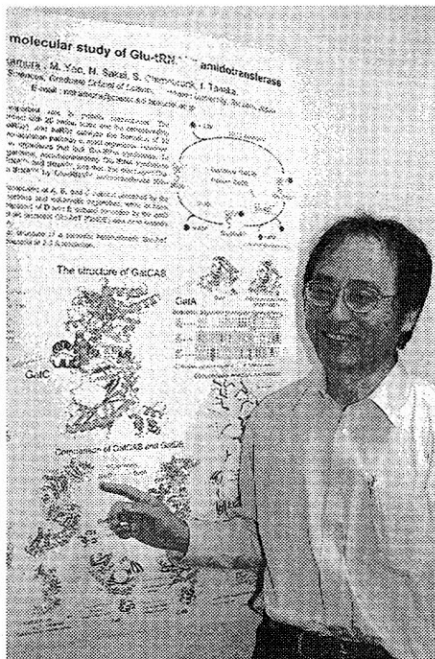


MRSA

酵素の立体構造解析

北大グループ 治療薬開発に弾み

北大大学院先端生命科学研究院の田中勲教授(左)「構造生物学」のグループが、院内感染の原因菌であるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)が持つ酵素の立体構造の解析に成功した。この酵素の働きを抑える研究が進めば、MRSAの治療に有効な薬の開発につながる。研究成果は三十日発行の米科学誌「サイエンス」に掲載される。



タンパク質複合体の新しい構造を解析した田中教授

グループが解析した

酵素は、「Gat(ガット)CAB」というタンパク質複合体。MRSAを形作る数千種類のタンパク質を合成するのに必要不可欠な酵素の一つだ。

田中教授らは、この酵素を構成する「GatA」「GatB」という二種類の酵素がどのように結合している

かを解明。二つの酵素の間にトンネルのような機構が存在し、その中に、タンパク質をつくるのに重要な役割を果たすアンモニアの浪費を防ぐ栓のような仕組みがあることなど、詳細な構造を突き止めた。

MRSAは近年、特效薬とされる抗生物質も効かない耐性菌の報告例もあることから、田中教授は「この酵素の働きを抑える化合物の開発が進めば、MRSAに効く新薬の開発につながる」と期待している。

筑波大学院人間総合科学研究科の太田敏子教授(分子微生物学)は「MRSAの生存のしくみを明らかにする糸口となり、これを征圧する薬をデザインできるようになる」と評価している。

違法逮捕と男性提訴

道側は争う姿勢を示す
札幌地裁で口頭弁論

スピード違反で警察に車を止められた際に運転免許証の提示を拒み、道交法違反(速度超過)の現行犯で逮捕された札幌市内の男性(四三)が、逮捕は違法で精神的苦痛を受けたとして、道に慰謝料など九十九万円を求めた訴訟の第一回口頭弁論が二十九日、札幌地裁(中野琢郎裁判官)であった。

道側は請求棄却を求め争う姿勢を示した。訴えによると、男性は四月七日、恵庭市内の道道で車を運転し、取り締まり中の千歳署員に停止

は「パスなどはなかった」と答えた。男性は署員の態度に納得できず免許証の提示を拒んだところ、逮捕されたといい、男性は同署に拘留され、翌日午後釈放された。

男性は署員の態度に納得できず免許証の提示を拒んだところ、逮捕されたといい、男性は同署に拘留され、翌日午後釈放された。

犯罪の「引き金」調査

対象絞り支援策を検討

道警

道警は二十九日まで、困窮など環境の悪化によって罪を犯す恐れがある少年、高齢者、出所者を「犯罪脆弱者」とし、犯罪を起こさせないために必要な支援策を探る調査・研究に乗り出した。道警によると、警察が主体となったこうした取り組みは全国初という。道警は昨年十一月から

嘱。道警の警視クラス二千人のうち、六割は出所時に更生の意思を持っていたものの、更生できなかった。その理由として「金がない」「人間

関係がうまくいかない」を挙げた。出所直後の就職先は「見つかった」が六割だったが、仕事が続かないケースも多かった。具体的な支援策としては就職先の確保などが考えられるが、関係機関や企業、地域住民の理解と

誤認逮捕で警視庁が謝罪

東京地検が無罪論告へ

無罪論告へ

刑の際に無罪判決を求め、八口口を認めた。東京地検の伊藤鉄男次席検事は「犯人でない方

や、八口口を認めた。東京地検の伊藤鉄男次席検事は「犯人でない方